

一般質問 平成23年3月8日
自由民主党 32番 波多洋治

改めまして、皆さんおはようございます。自由民主党県議団波多洋治です。しばらくおつき合ってください。

初めに、環境テロに屈した水産庁と環境テロ団体を放置あるいは支援する国々に怒りを持って調査捕鯨の中止について私見を申し述べたいと思います。

言うまでもなく、調査捕鯨というのは、国際捕鯨取締条約に基づいて鯨の捕獲頭数が決められているものであり、今回、我が国は南極海においてはクロミンククジラ 850 頭、ナガスクジラ 50 頭、ザトウクジラ 50 頭、合わせて 950 頭の捕獲が認められていたのです。ところが、2月18日、農林水産大臣は、反捕鯨団体シーシェパードの妨害行為を受け、過去最低のわずか 172 頭を捕獲した段階で突如として船団に帰国を命じました。今回の決定を受け、早速、シーシェパードの国際指名手配犯ポール・ワトソンは、「我々にとっての大きな勝利である」と宣伝し、今後も妨害活動が続けることを明言しております。これを屈辱と言わずして何と言えればいいのでしょうか。今さらに言うまでもなく、テロリストの不当な圧力に屈することは、国際常識の観点からあってはならないことでもあります。しかし、今回またしてもその愚行、愚かな政治判断が繰り返されたのであります。

以前、ノルウェーの商業捕鯨船がシーシェパードに妨害されたとき、徹底的に抗戦し、撃退しています。その後、シーシェパードはノルウェー船を攻撃せず、無抵抗な日本の調査捕鯨船だけをねらっております。海上保安官をきちっと同行させ、シーシェパードの危険行為には武器の使用も辞さないという声明をきちんと発表し、それでも日本国の財産に対して危害を加えてきた場合は、銃撃し、撃退する、これを肅々とこなせば、半年でシーシェパードの活動は終息します。

今回は海上保安官が乗船していませんでした。海上保安官が乗船していれば、発煙弾を撃ち込まれたときなどに適切に対処できるのですが、水産庁から海上保安庁に保安官の要請がありませんでした。シーシェパードは、強い相手には手を出さず、無抵抗な日本船だけをねらう卑劣な海の暴力団であります。それならば、日本側も毅然とした態度でその対応をとるべきです。どうして日本政府はしないのでしょうか。日本国民を守るべき政府は、民主党の内紛と国会運営のまずさなどが露呈しているために手も足も出なくなっているのです。これは一体何を意味するのか、まさしく政権担当能力がないということではないのでしょうか。一日も早く解散総選挙を実施して国民に信を問うべきであります。

それでは、通告に従って質問をさせていただきます。

昨年6月の一般質問で、高梁市出身の留岡幸助をたたえる「大地の詩」の映画制作について、知事にお伺いをいたしました。山田火砂子監督が渾身の力を込めて制作、ついに岡山でも封切られました。知事さんも鑑賞されたと聞いております。御感想はいかがでしたでしょうか。

知事さん、岡山県は高梁市や県立成徳学校に関係が深いこの映画制作のために、いかなる支援、いかなる対応をされたのでしょうか。

家庭教育の崩壊が叫ばれて久しく、学校また学級崩壊やモンスターペアレントによる不条理な要求が突きつけられる中、留岡幸助の「家庭にして学校、学校にして家庭、愛と智がいっぱいに溢れた環境のもとで教師と生徒が一体となって感化教育に当たりたい」という思いが込められた「大地

の詩」の映画を、親御さんにも子供たちにもぜひとも鑑賞していただきたいと思います。教育長さん、この映画の普及のために、いち早く岡山県教育委員会の推薦映画として学校等に推奨するお考えはございませんか。

先般、山田監督も知事を表敬訪問し、親しくお話をされました。よわい80の山田監督から、ほとぼしるような映画にかける情熱や執念のような意気込みを感じ、感動いたしました。山田監督の次なる映画のターゲットは、新見市に生まれ、9歳のとき足守のおじの養子となり、14歳のとき家出して上京、やがて同志社で学び、後に高梁教会伝道師となって日本人初の救世軍士官となった山室軍平です。キリスト教の伝道とともに廃娼運動、つまり貧しさゆえに身売りされ娼婦となっている人たちの救済活動に取り組んだ人であります。かつて私は、本県ゆかりの映画やテレビドラマの誘致には、待ちの姿勢ではなく、企画立案の段階から積極的に携わってはどうかと知事に尋ねました。そのときの御答弁は、「岡山ゆかりの人物等を題材とする映画やドラマの制作、放映は、観光振興に一定の効果があり、映画のロケ誘致等を積極的に推進してまいりたい」とのことでした。

そこで、お伺いしますが、今年度のロケ誘致の状況はいかがでしたでしょうか。また、山田監督に山室軍平の映画制作を勧めるなど、岡山ゆかりの人物を題材にした映画等の誘致を積極的に進めてはいかがでしょうか、お尋ねいたします。

次に、中山間地域に対する従来の質問の趣旨を転換してお尋ねしたいと思います。

4月1日告示の私の選挙区には、御津・建部・吉備中央町というかつて限界集落と呼んでいた小規模高齢化集落がございます。私もそんな集落を歩き、地域の人たちと話し合いをいたしました。今、県が打ち出している「おかやま元気！輝く中山間地域を目指して」という集落支援事業は、本当に中山間地域の支援事業になるんですか。集落機能の維持強化策で、中山間地域が救えるのですか。この政策では、抜本的な中山間地域問題の解決策にはならないのではないかと思います。

中国四国農政局が小規模高齢化集落を、総農家戸数19戸以下、65歳以上の高齢化率50%以上の農業集落として調査した資料では、岡山県内の小規模高齢化集落数は369と挙がっております。平成20年に、本県でも中山間地域における集落状況調査を行っていますが、政令市岡山の中山間地域と吉備中央町には、幾らの小規模高齢化の集落があるのでしょうか。世帯数の総数がわかればあわせて教えてください。

また、本県の平成22年度の中山間地域対策費は総額幾らでしょうか。そのうち小規模高齢化集落の対策費は幾らでしょうか。県民生活部長にお伺いいたします。

国土交通省の国土審議会長期展望委員会は、2050年の日本の国土の姿について、過疎化や少子・高齢化が継続した場合、人の住んでいたところが次第に無人化し、その地域が拡大し、中国圏では24.4%が無人化するという推計報告をまとめました。それはつまり、現在の小規模高齢化集落が消えていくということではありませんか。県を挙げて中山間地域の振興に取り組んでいるにもかかわらず、このような推計報告が出ているということ、県は重く受けとめるべきだと思います。県が中山間地域の活性化に向けて行う政策は、いつかのカンフル剤のようなものではないのでしょうか。中山間地域の方々が将来に向かって希望や展望が持てるような政策を進めるべきではないでしょうか。

では、何をしたらよいのか。私は集落全員の合意に基づいた集団集落移転を考えるべきときではないかと思います。いろいろ調べてみましたが、集落移転の実例が見つかりません。あれば教えてください。私は、知事さんが先頭に立って集落の人たちに語りかけるべきだと思います。今後、多くの集落が無人化すると推測されているような現状を踏まえると、勇気ある山村からの撤退が、必

ずや地方の、いや地方の小都市の再生となります。よりよい生活のために、とりあえずの撤退であることを説くべきだと思います。通院やショッピングの問題を解消し、インフラの整備された生活が保障され、独居老人の安否確認も容易であり、交通の利便性も享受できます。周囲には田園地帯を設定し、農業にも取り組みます。あきらめの撤退ではなく、希望を持った集落移転としていただきたいのです。そして、跡地は、次のステージとして再生策を考えればいいのではないかと思います。知事さんいかがでしょうか。ここは重要な中山間政策の、特に小規模高齢化集落のターニングポイントとなる政策論です。岡山が全国に先駆け、先例となり、集落移転のモデルとなつてはどうか。集落移転の実例とあわせて御所見をお伺いしたいと思います。

次は、吉備線の次世代路面電車と呼ばれるLRT化についてお伺いいたします。

ちょうど今から8年前、JR西日本は将来的に吉備線のLRT化を検討していると発表しました。しかし、同時に発表された富山港線のLRT化が3年後の2006年に実現しているのに対して、吉備線のLRT化の進展はほとんどありませんでした。そのような中、平成21年2月定例会の一般質問において、佐藤県議は、「JR吉備線LRT化の話に県も積極的にかかわるべき」と発言され、知事は、「岡山市の検討状況等を見きわめながら、適切に対応する」と答弁しておられます。あれから2年、JR吉備線LRT化の推進は図られたのでしょうか。本年1月31日、岡山市と岡山商工会議所は、おかやま都市交通戦略連携会議を発足させました。そして、岡山市役所において初会合が開かれ、吉備線のLRT化の推進などに優先的に取り組むことが決定されました。大変残念なことに、この連携会議のメンバーは9人、岡山県からはどなたも入っておりません。なぜでしょうか。吉備線は、岡山駅から総社駅までの約20キロ、10の駅があり、うち7つは無人駅であります。総社市を含めた観光振興策は、まさしく本県の観光行政と直接的に関係のあることではありませんか。吉備線のLRT化をテーマとする連携会議に岡山県が入らない理由をあわせて教えてください。

ところで、この吉備線のLRT化は実現可能な政策でしょうか。何だか吉備線のLRT化というテーマをもてあそんでいるようにしか思えません。個人的には、いまだ電化ができず、電化するための巨額の費用や黒字経営の難しさ、駅の新設など多額のインフラ整備費用、さらには経営主体を考えると、笛吹けど踊らなくなるような気がしてなりません。知事さんはいかがお考えでしょうか、正直なお気持ちをお聞かせください。

そこで、提案です。知事さん、吉備線にトロッコ列車を走らせましょう。吉備線のLRT化の論議に参画もできない今、県は県としての独自性を出すべきです。車両は県産材を使用、2両編成、自転車も自由に乗りおり可能、屋根はありません。牽引車はD51がおもしろいと思いますが、環境問題もあり気動車でも可。土日と祝日のみの運行でもいいし、季節列車にしてもよし。現行の吉備線は1時間に2本、1日33本、岡山ー総社間40分から45分をかけて走っています。トロッコ列車は午前中に3本、午後3本程度でいいのではないのでしょうか。ダイヤの合間を縫えば3本程度は可能です。沿線上には四季折々の花を咲かせ、自転車道が整備され、地域の特産品や郷土料理もあります。トロッコ列車の名前は吉備の国号、うらじゃ号、考えるだけでも夢が広がります。知事さん、いかがでしょうか。晴れの国をそよ風に当たりながら走る岡山名物のトロッコ列車を走らせることができれば、岡山県の観光振興に大いに寄与すると思いますが、知事さんの御所見をお伺いいたします。

次は、林原の経営破綻についてお伺いいたします。

人の命は限りがありますが、会社は企業活動を通して社会に貢献し、経営者は従業員とその家族のために永遠であるための策を講じなければなりません。いやしくも経営に失敗し、結果として破

綻を招いたことは、経営者にこそその責任のすべてがあります。会社更生法の適用を受けた現在、粛々として法に基づき処理されることではありますが、いささか気がかりなところをお尋ねしたいと思えます。それは地方にあって独自の技術開発を行い、世界に通用するインターフェロンの研究・製造などの研究開発型企業のありようではありません。問題は、地方にあって本業とは関係のない、第1回メセナ大賞の受賞に絡む社会貢献活動にかかわることです。つまり、財団法人林原美術館や社団法人林原共済会、あるいは古生物学研究センターや類人猿研究センターを有する林原自然科学博物館であります。とりわけ「日本文化のエッセンスと言えるコレクション」と認められる林原美術館には、日本刀や岡山藩主池田家伝来の能装束など国宝3件、国の重要文化財26件を収蔵しております。しかし、これらがすべて借金のカタに差し押さえられ、二束三文でたたかれ、あげくの果ては県外に持ち去られてしまうことを恐れます。何としても岡山県として守らなければならないものがあるのではないかと、林原のメセナの灯を消さない方法はないのか、知事さんの御所見をお伺いしたいと思います。

最後に、教育問題について教育長に問題提起をさせていただきます。

2月25日の景山議員の新規予算の暴力行為対策アドバイザー配置事業についての質問に対し、教育長は「警察OBは荒れの状況が見られる学校を巡回し、教員と一緒に子供への直接指導を毅然として行う」と答弁されました。この事業はあくまでも新規であり、その取り組み方は何度も現場で試行錯誤しながら、一定の指導のパターンが生まれてくるのでしょうかから、今その方法や効果を問うべきではありません。しかしながら、事が非行や暴力行為に対応することですので、取り組む前に懸念される思いの一端を申し述べてみたいと思えます。

現場経験のある教育長さんですから、生徒指導において、生徒との人間的コミュニケーションのない段階での指導がどんなに難しいか、おわかりいただけるかと思えます。それを巡回する警察OBで果たして適切な対応ができるのか、大変不安であります。暴力行為対策アドバイザーの名前は変えるべきです。仮に生徒指導員としましょうか、生徒指導員は学校の教師とともにさまざまな行事に取り組み、教師とともに汗をかき、教師と学校生活をともにする仲間となり、まず教師が生徒指導員に心を開かなければなりません。教師たちとの人間関係を構築し、そして生徒が大好きになり、生徒達とも仲間になる努力を積み重ねなければなりません。ゆえに常勤であり、勤務先に腰を据えなければならないと思えます。生徒指導を巡回という手法で対応することに、いささかの不安を感じるゆえんであります。

ところで、教育長さん、学校が荒れ、非行や暴力生徒の対応のために教育委員会が警察OBを採用しようとしているような状況に至って、現場の教師たちは何をしていますのか。なぜ現場の教師たちから生徒指導に関する声が上がらないのですか。なぜ自主的にこのような暴力問題に積極果敢に取り組もうとしないのですか。今自分たちが、教師として、この混迷混乱の現状を踏まえ何ができるか、何をすべきかを問うべきではありませんか。教育は人なりです。現場の教師みずからの問題であり、教師生命を賭して取り組まなければならない問題であります。現場教師に対する問題を提起して、一般質問を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。

【答弁】知事

自由民主党の波多議員の質問にお答えをいたします。

まず最初に、映画「大地の詩－留岡幸助物語－」等についてであります。

感想等ではありますが、公開早々に私は鑑賞をさせていただきました。また、議員御同行いただきましたけれども、山田火砂子監督の御訪問もいただき、まことに年を感じさせない、非常に情熱あふれたお話をお聞きいたしまして、大変私自身も感動したといひましようか、感銘を受けたところでございます。ますますの山田監督の活躍というものを期待したところでございます。

この映画でございますが、少年教護の父と称されております留岡幸助の情熱に満ちた生涯、これが迫力ある、また大変美しい映像によって描かれておりまして、大変感銘を受ける内容となっております。また、家庭の大切さということにつきまして、改めて考えさせられるような、そのような内容でございました。岡山県としての立場で見えておりますと、高梁市が重要な舞台となっているということ、そして主役のお二人を初めとして、岡山弁が温かい雰囲気づくりに一役買っているといったことにつきましても、大変喜ばしく感じたところでございます。

この映画の支援等でありますけれども、映画の制作に関しまして、今回初めてとなりますけれども、後援名義の使用ということをお認めさせていただき、また県のホームページへの掲載、あるいは市町村等への通知によりまして、上映の周知などに努めてきたところでございます。

ロケ誘致の状況等についての御質問をいただきましたが、県や地域フィルムコミッション、市町村等で構成をいたします県フィルムコミッション連絡協議会におきましては、脚本家や映画制作会社等に対しまして、本県の魅力ある題材のPR、あるいはロケ誘致等を行ってきておりまして、今年度はこれまでに映画4件、テレビやウェブ関連で27件のロケを誘致したところであります。今後とも、この協議会の活動の中で、お話をいただきました山室軍平を含めまして、岡山ゆかりの人物などを題材とする映画等の誘致に積極的に取り組みますとともに、ロケ関連情報を全国に発信することによりまして、観光客誘致につなげてまいりたいと存じます。

次に、中山間地域振興策に関連し、集落移転についての御質問であります。国の調査によりますと、これまで全国で100件を超える事例があると、このような調査があるわけでございますが、過疎対策といたしまして、国の補助制度、これを活用した市町村の取り組みということでは、11年度以降は一件もないと、このように聞いております。また、県内では過去にそうした取り組みはないと、このようにも聞いていますところでもあります。

集団移転に積極的に取り組むべきではないかとの御提案をいただきましたが、まずは集落の置かれている状況や住民の方々の意向を踏まえまして、市町村がその適否を判断するということが肝要であると考えておりまして、具体的な御相談がありますれば、国の支援制度の活用等、適切に対応してまいりたいと存じます。

次に、吉備線のLRT化等についてであります。

まず、現状等ではありますが、21年度に岡山市が策定をいたしました都市交通戦略では、交通施策の一つといたしまして、吉備線のLRT化が示されておりまして、同年度から、市が岡山駅周辺の高架部分など既存構造物についての技術的な調査を行っているところでもあります。

また、岡山市と岡山商工会議所が立ち上げました、お話をいただきました連携会議につきましては、市域内の新たな交通体系の構築など、同市の都市交通戦略の実現を図るということを目的とするものでありまして、そういったことから県の参画は求められていないところでもあります。

実現の可能性ではありますが、LRTは低床式で、だれもが利用しやすく、大気汚染の心配が少ないなど、人にも環境にも優しい公共交通である一方で、お話のように多額の事業費がかかると、このように聞いていますところでありまして、県といたしましては連携会議における検討状況等を見きわめながら、適切に対応してまいりたいと存じます。

これに関連し、トロッコ列車についての御提言をいただきました。吉備路、そして特にレンゲの花が咲いている時期、こういったときにトロッコ列車がのんびり走るといふ光景、これは大変観光振興等にも効果的であるとは思いますが、今の時期のように寒いときには、窓がない、屋根がないとなりますとなかなか大変なことかなとも感じておりますが、いずれにいたしましてもトロッコ列車、全国で10数カ所で運行されております。近くで申し上げれば瀬戸大橋を走っておりますJR四国のアンパンマントロッコ号、こういった列車もございますが、こういったトロッコ列車は観光地の魅力アップなど観光振興にはつながっているものと、このように考えます。ただ、1両導入するとしてだけでも約1億円にも及ぶような車両の製造等に多額の経費がかかるとも聞いております。また、スピードが通常の列車より遅いといったことがありまして、ゆっくりと走りますと、後から来る定期列車の運行、これに支障を及ぼすと、こういったことなどの問題もあると、このように聞いておりまして、今後、JR西日本の意向というもの十分に踏まえながら、本県といたしましても研究をしてみたいと思っております。

最後に、林原のメセナ活動についてであります。長年にわたる同社の社会貢献活動は、地域社会の大切な財産であると認識をいたしております。特にお話をいただきました林原美術館の池田家ゆかりの品々は、体系的なまとまりのある貴重かつ大規模なコレクションといたしまして、岡山の地で一体的に保存されることで価値がさらに高まるものと、このように考えております。今後、そういった理解のもとでメセナ活動の方向性が示されることを願っているところでありまして、県といたしましてはその推移を注視してまいりたいと存じます。

以上でございます。

【答弁】 県民生活部長

お答えいたします。

中山間地域振興策に関して、岡山市の集落数等についてであります。関係市町村の御協力をいただき20年に調査したところ、県内の中山間地域は5,758の集落があり、そのうち1,029が小規模高齢化集落でありました。岡山市の中山間地域であります御津地域、建部地域につきましては、小規模高齢化集落はないとの報告を同市から受けておりまして、吉備中央町からは小規模高齢化集落は77集落で、世帯数は720世帯との報告を受けております。

また、今年度の中山間地域対策関係予算は、道路の整備や農林水産業の振興など、合わせて約364億4,000万円であります。この中には、集落機能再編・強化事業を初め小規模高齢化集落に係るものも多く含まれておりますが、小規模高齢化集落のみに限定した事業費につきましては算出が難しゅうございますので、御理解を賜りたいと存じます。

以上でございます。

【答弁】 教育長

お答えいたします。

映画「大地の詩―留岡幸助物語―」の学校等への推奨についてであります。郷土の先人留岡幸助を描いたこの映画は、少年教護における家庭の重要性をテーマにしたものであり、県教育委員会としても、映画の制作について後援したところであります。

家庭は最も基本的な生活の場であり、すべての教育の出発点として、他人に対する思いやりや善悪の判断等の基本的な倫理観、社会性などを身につける上で重要な役割を果たすものであります。この映画は私も先日見ましたが、留岡幸助の生き方とともに、慈愛の精神にあふれた家庭の大切さを強く訴えるものでありまして、見る人に大きな感動を与えるものでありました。この映画の県内での上映は、3月18日までと聞いておりますが、今後、再上映やDVD等での鑑賞が可能となる場合には、校長会やPTA研修会等の機会をとらえて周知に努め、家庭の重要性を再認識する契機としてまいりたいと考えております。

以上でございます。

【再質問】

再質問をさせていただきます。

知事さん、国土交通省の国土審議会長期展望委員会の公表なんですが、中国圏で24.4%が無人化するという、そういうことを考えますと、やっぱり岡山県内のそういった小規模高齢化集落もやがて消えていく運命にあるのではないかと思うんです。それは恐らくそういった集落の方が一番心の奥底でひしひしと感じている問題のように思えます。

そこで、中山間対策を専門とする室の皆さんがそれを真摯に受けとめながら、そのための集落移転というようなことをシミュレーションしているのか、またシミュレーションするための予算というものを考えているのか、そのあたりちょっと教えていただければと思います。要するに、方向性、本来のそういう小規模高齢化集落をどう解決していくのか、そういった方向性をきちんと出した上で、そのようなシミュレーションも私は最終的に大変大切になってくるのではないかと思いますので、そのあたりの検討状況と申しますか、これからの方向について教えていただければと思います。

最後に、教育問題の問題提起をさせていただきましたけども、私は毎回教育長さんに教育問題の御答弁をお願いしたところでありますが、もう既に新聞紙上で報道されておりますが、今期をもちまして御勇退されるという門野教育長さんでございます。大変お人柄も温かく、つつい質問の手を緩めたこともたびたびございました。しかしながら、どうぞ愛情を持って後に続く後輩たちのために高所大所から今後とも御指導、御鞭撻を賜りますように心からお願い申し上げまして、再質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【答弁】知事

再質問にお答えいたします。

集団移転について、中山間地域対策に関する集団移転についての再質問でございますが、先ほど申し上げましたとおり、今の場所に住み続けたいとお考えを持っておられる方々が大変多いという調査がございまして、平成12年の調査、ぜひそのまま住みたい、あるいはできればそこに住みたいという、合わせまして約7割近くの方がそのような御意向を持っていらっしゃる、こういったことございまして、集落の置かれている状況、あるいは住民の方々のこういった意向等を踏まえました上で、この事業主体は市町村でございますから、そちらが中心になって対応策を考えられる、その際にはさまざまな制度もありますから、それは適切に相談等、あるいは助言等させていただきたいというふうに思っております。

そういった意味で、具体的にシミュレーションしてるといったことはございませんし、これに関する具体的な予算というものは計上しているものはありませんが、全体の中山間地域対策全体の中でさまざまな研究は行っているということでございます。

以上でございます。